

番 号	6 陳情第15号 (調布飛行場安全利用及び国立天文台周辺地域まちづくり特別委員会付託)
受理年月日	令和6年11月27日
件 名	「羽沢小高台移転により高まる登下校時の水害リスク」への対策について
提 出 者	三鷹市在住 平墳 芳隆 三鷹市在住 平墳美佐代
要 旨	
<p>(趣旨)</p> <p>要約：</p> <p>羽沢小が高台に移転した場合も、大沢四、五丁目の子どもたちは野川沿いを歩きます。学校を出たとき降っていなかった雨、弱かった雨が、30～50分後には強い雨、激しい雨に変わることがあります。激しい雨の中、野川沿いを歩けません。子どもたちを守るための対策が必要です。国立天文台周辺地域土地利用基本構想は、子どもたちの下校時の安全安心に関して無策ですが、学校には、登下校時を含めて、子どもたちの安全に配慮する義務があります。三鷹市、天文台周辺地区まちづくり推進本部、教育委員会は、現状と予想される問題を分析し、対策を検討し計画を見直すべきです。</p> <p>詳細：</p> <p>国立天文台周辺地域土地利用基本構想は「洪水浸水想定区域に立地する羽沢小を高台にある天文台敷地北側ゾーンに移転することで、子どもたちの安全安心の確保と風水害時における学校教育の継続性を高めます」としています。しかし、校舎が浸水から逃れても、多くの子どもたちが野川沿いの家に住み学校に通います(資料1)。</p> <p>野川沿いの通学路は、天気良ければ、便利で安全で素晴らしい(資料2)。しかし、激しい雨が降ると、下校中の子どもは雨で動けなくなります。雨宿りできる軒先は、ほとんどありません。道路は冠水します。野川の水位が上がり堤防に近づいてきます。</p> <p>2024年、6月から8月の大沢地区では、激しいゲリラ豪雨が何度もありました。30分ほどで水位が氾濫危険水位まで上がった日が、4日確認できます。7月31日は、17時40分からの1時間で70ミリメートルの雨が降りました。17時50分からの10分間に</p>	

は、24ミリメートルの降雨が観測されました（1時間に換算すると144ミリメートル、とんでもない猛烈な雨）。野川の水位は、30分間で1.99メートル上昇し、氾濫危険情報が18時35分に出て、最終的に氾濫発生水位まであと11センチメートルに迫りました（資料4、5）。雨の降り始めが30分早かったら、学童の子どもや保護者が猛烈な雨の中でずぶ濡れになって座り込んでいたでしょう。予測の難しいゲリラ豪雨でした（台風や前線の影響で大雨が長く降る場合は、子どもたちが学校にも雨の通学路にもいません）。

今の羽沢小は、特別な荒天対策を取っています。子どもたちが下校中に危険な目に遭わないように、早めの下校や学校待機によって下校タイミングを調整する対策です。野川が学校のそばにあり、野川と上流の空と通学路が学校から見え、子どもの家も長くて20分程度と学校から近い。そのため可能な荒天対策です（資料8、9）。

移転後の高台の学校は、猛烈な台風でも浸水の心配がゼロです。しかし、下校時、学校を出てから30分後、子どもたちは学校から離れた野川沿いを歩きます。安全安心を確保するのは難しいと思われれます。子どもたちをスクールバスから羽沢小辺りに降ろした時、強い雨が降り始め、野川沿いを歩いている途中で激しい雨に遭うかもしれません。高台の学校に待機させたり保護者に高台の学校で引渡しをしたりすることが増えると、保護者の負担が重くなります。羽沢小跡地など浸水想定区域内に教職員と児童の待機する建物を造ったり、危険と判断したらスクールバスを引き返したり子どもの自宅近くまで特別運行したりするくらいなら、羽沢小を残したほうが合理的なのかもしれません。

三鷹市がなすべきことは、現状調査と移転後の対策立案、安全安心を優先した計画への修正です。

- 1 現状調査：羽沢小、大沢台小は、野川沿いから通う児童を抱えています。今年の6月から8月、天気の荒れた日に、早めの下校や学校待機をどれくらい実施したか。これまで、どんな課題が発生し改善したか。学校に聞き取り調査を実施して報告してください。
- 2 移転後の対策立案：高台に移転した学校では、どのような対策を取って、今と同等以上の安全安心を確保するか、至急、対策を立案してください。
- 3 安全安心を優先した計画の修正：学校には、子どもたちの安全安心に配慮する

義務があります。教育委員会は、新しいまちづくりや新しい学校づくりより、子どもの安全安心を優先すべきです。三鷹市は、基本構想を補正して、羽沢小や学童の移転を外すことを含めて計画を再検討してください。